

北九州市内の高校生ヤングケアラー実態調査（Part. II）

深谷 裕、寺田千栄子

1. はじめに

本調査における「ヤングケアラー」は、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度におこなっていると認められる子ども・若者」のことである¹。

2020 年度に全国の中学生や高校生を対象として実施された調査²において、世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学 2 年生が 5.7%、全日制高校 2 年生は 4.1%であり、そのうち、世話の頻度は「ほぼ毎日」と回答した者が 3～6 割程度、平日 1 日あたりで世話に費やす時間は「3 時間未満」との回答が多いものの「7 時間以上」と回答した者も 1 割程度いることが明らかになった。これを受けて、ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告（令和 3 年 5 月 17 日）により、関係機関が連携し、ヤングケアラーを早期に発見して適切な支援につなぐため、①早期発見・把握、②支援策の推進、③社会的認知度の向上が今後取り組むべき施策と設定された³。また政府は、2022 年度予算から順次、「ヤングケアラー支援体制強化事業」等により、地方自治体における実態調査、関係機関研修、支援体制構築等の取組推進を開始した。

しかし、2023 年度に実施された調査では、ヤングケアラーへの支援は、自治体ごとの取組にばらつきがあり、都道府県と市町村の役割分担も明確でなかったこと、市町村での実態把握の実施率が低いことに加え、調査様式が支援を必要としている者を把握できる仕様でない場合も多く、ヤングケアラーを必要な支援につなぐ上で、課題となっていること、相談窓口を含む相談支援体制の整備について、自治体ごとの取組状況に差があることなどが明らかになった⁴。そこで、政府は 2024 年 6 月に、「子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律」において、子ども・若者育成支援推進法を改正し、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象にヤングケアラーを明記した。そして、ヤングケアラー等の同法の支援対象となる子ども・若者に対し、子ども・若者支援地域協議会と要保護児童対策地域協

¹ 子ども・若者育成支援推進法第 2 条第 7 項

² 「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和 3 年 3 月） 三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

³ 「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチームの立ち上げについて」ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム第 1 回会議資料 1

⁴ 令和 5 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラー支援の効果的取組に関する調査研究」

議会が協働して効果的に支援を行えるよう、両協議会調整機関同士が連携を図るよう努めるものとした。

一方、福岡県については、県内 60 市町村の要保護児童対策地域協議会に対するメール調査の結果、2022 年 10 月 1 日時点で市町村が把握しているケースが 131 件（小学 41.2%、中学 47.3%、高校 9.2%）あることが明らかになっている⁵。また、広報活動を推進するほか、相談窓口を設け対応に当たっている。ただ、ヤングケアラーは、「家庭内のデリケートな問題に関わること、本人や家族に支援が必要である自覚がないケースもあるといった理由から、支援が必要であっても表面化しにくい構造」があることも指摘されている³。

そこで筆者らは、ヤングケアラーの実態をより詳細に把握すべく、2023 年度に北九州市内の高校 8 校（全日制高校 7、単位制 1 校）の協力を得て、計 2,731 名を対象にヤングケアラーの実態調査を行った。その結果、回答者の 4.7%が家族の世話をしていることが明らかになったが、その 9 割は相談の経験がなく、当該調査においてもヤングケアラーの実態が表面化しにくいことが示唆された。

本研究は、昨年の調査で対象とならなかった定時制高校 4 校を対象に、同様の調査を行い、ケアの実態を把握しようとするものである。定時制高校に通う生徒の背景は多種多様であり、その中には家族のケアを担っている生徒も一定数ふくまれることが推察される。実際、2020 年に実施された前述の全国調査において「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無について調査協力校に尋ねたところ、全日制高校に比べて定時制高校の方が「いる」と回答した割合は 20%ほど高かった。

2. 方法および分析デザイン

①調査票：2023 年度研究から得られている結果と比較分析し本市の定時制高校生徒にみられる傾向を将来的に明らかにできるよう、調査項目は 2023 年度調査と同様のものとした。なお、追加項目で回答者の年代を訪ねている。（添付資料①参照）。

②調査対象者・方法：調査対象は北九州市内の定時制高校 4 校に協力を依頼し、HR 等の時間を利用して在籍する生徒 1～4 年生の 346 名である。QR コードから質問票にアクセスして、回答者が特定されないよう無記名で回答できる仕組みにした。調査期間は 2024 年 10 月 1 日～30 日の 1 か月間である。なお、各高校の結果は求めに応じて担当教員にフィードバックしている。

3. 結果

⁵ 福岡県「令和 4 年度「ヤングケアラー」に関する調査結果【概要版】」

https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/682857_61719556_misc.pdf（最終閲覧 2024 年 2 月 11 日）。

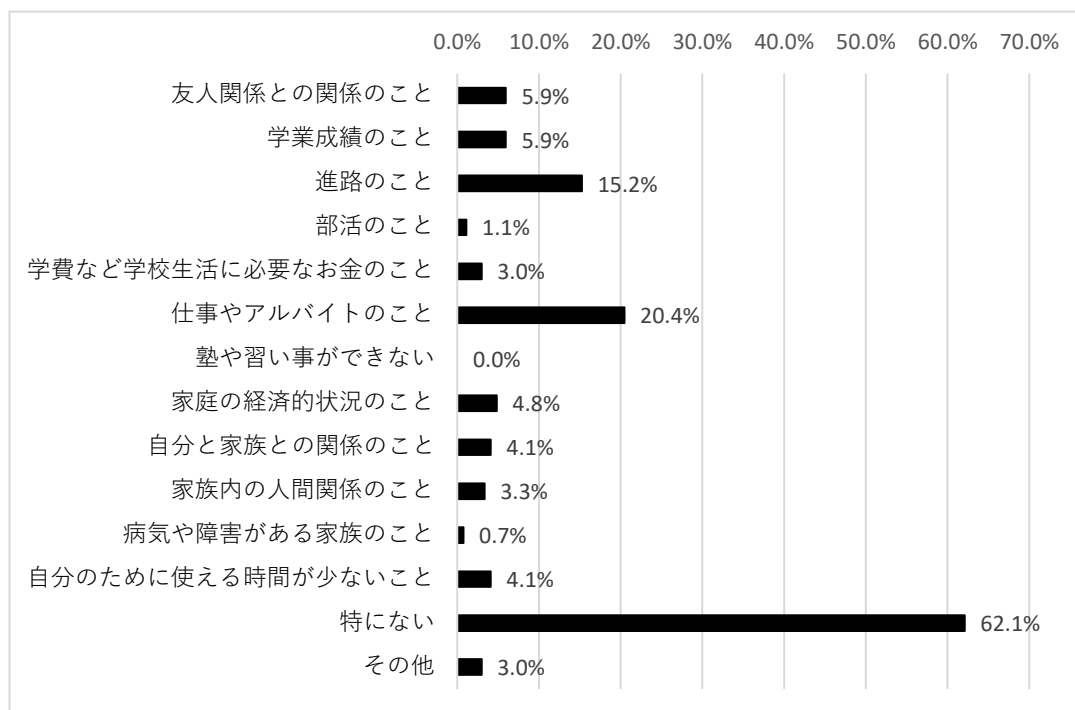


図 1 全体の現在の悩み (%) N=269 (複数回答)

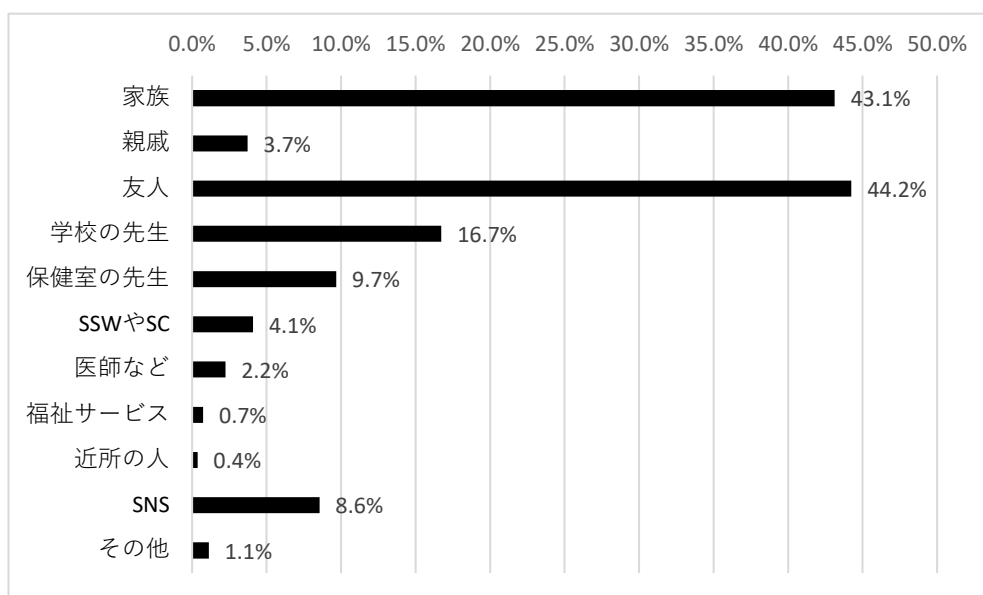


図 2 全体の相談相手 (%) N=269

1) 全回答者の調査結果

346 名中 269 名から回答を得た (回答率 77.7%)。1 年生 107 名 (39.8%)、2 年生 89 名 (33.1%)、3 年生 47 名 (17.5%)、4 年生 26 名 (9.7%) の計 269 名から回答を得た。10 代が 264 名 (98.1%)、20 代が 5 名 (1.9%) であり、女性 46.5%、男性 50.6%、その他 3.0%

である。回答者の悩み事として最も多かったのは「仕事やアルバイトのこと」20.4%、次いで進路のこと（15.2%）であり、「病気や障害がある家族のこと」は0.7%、「特にない」は62.1%であった（複数回答）（図1）。また、「相談相手がいる」は67%、「相談相手がいない」は16%、「相談や話はしたくない」は17%であった。相談相手でもっとも多かったのは「友人」44.2%、次いで「家族」43.1%、「学校の先生」16.7%となっている（複数回答）（図2）。全回答者269名のうち「家族の中にケアをしている人がある」者は15名（5.6%）であった。

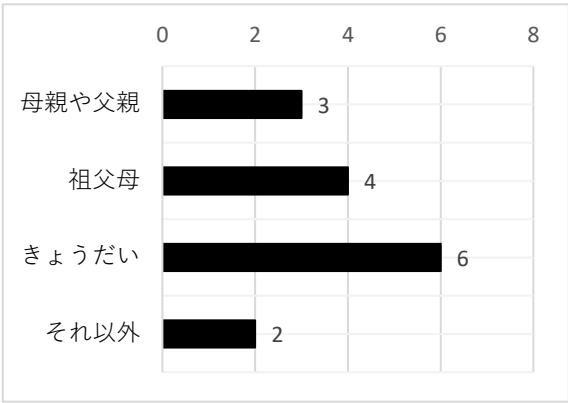
2) 世話をしている家族が「いる」と回答した生徒の調査結果

① 家族構成

家族のケアをしている回答者15名（女性6名、男性9名）の家族構成は、3世代世帯が1名、2世代世帯7名（うち弟妹あり2名）、一人親世帯7名（うち弟妹あり5名）であった。

② ケアの対象者

ケアの対象者の続柄を複数回答でたずねたところ（図3）、「母親や父親」が3名、「祖父母」が4名、「きょうだい」が6名、「それ以外」2名であった。



③ ケアをしている理由

表1～3は、ケアの対象者ごとに、ケアをしている理由を複数回答でたずねた結果を示している。親のケアをしている場合、親の「精神疾患」や「依存症」「それ以外の病気」が挙げられており、祖父母をケアしている場合は「高齢」という理由が、また弟や妹をケアしている場合は「若い」「身体障害がある」という理由が挙げられている。ケアの理由を「わからない」と回答した生徒もいた。

図3 ケアの対象の続柄（実数：複数回答）

表2 祖父母のケアをしている理由（N=4）

	度数 割合	理由（複数回答可）										
		高齢	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患	依存症	それ以外の病気	日本語が苦手	わからない	その他
祖母の世話をしている	2 50.0%	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
祖父の世話をしている	1 25.0%	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
祖父母の世話をしている	1 25.0%	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 100	0 0

④ ケアの内容

ケアの具体的内容（複数回答）について、全体的には「家事」（66.7%）と「外出支援」（46.7%）、「感情面のサポート」「見守り」（26.7%）、が比較的多く行われている（表4）。なお、これらのケアを一緒に行っている人については、「いない」が7名（46.7%）、母親5名（33.3%）であった。

表3 きょうだいのケアをしている理由（N=6）

	度数 割合	理由（複数回答可）							
		幼い	介護が必要	身体障害がある	知的障害がある	病気がある	日本語が苦手	わからない	その他
兄または姉の世話をしている	1 16.7%	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
弟妹の世話をしている	5 83.3%	3 60.0%	0 0.0	1 20.0%	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

表4 ケアの内容

	世話の内容（複数回答可）										
	家事	兄弟の世話	身体介護	外出支援	通院支援	感情面のサポート	見守り	通訳	金銭管理	内服管理	その他
全体(N=15)	10	1	2	7	2	4	4	0	1	0	0
	66.7%	6.7%	13.3%	46.7%	13.3%	26.7%	26.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%
親(N=3)	2	1	1	2	1	1	1	0	1	0	0
	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
祖父母(N=4)	3	1	1	3	1	2	2	0	1	0	0
	75.0%	25.0%	25.0%	75.0%	25.0%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
きょうだい(N=6)	4	1	2	4	1	3	2	0	1	0	0
	66.7%	16.7%	33.3%	66.7%	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
その他(N=2)	2	1	0	2	0	2	2	0	1	0	0
	100.0%	50.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%

表1 親のケアをしている理由（N=3）

	度数 割合	理由（複数回答可）										
		高齢	介護が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患	依存症	それ以外の病気	日本語が苦手	わからない	その他
母親の世話をしている	1 33.3%	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
父親の世話をしている	2 66.7%	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
両親の世話をしている	0 0%	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

⑤ ケアの頻度と1日のケア時間

ケアをしている頻度は、「ほぼ毎日」が7名（46.7%）、「週に3～5日」と「1か月に数回」が3名（20.0%）、「週に1～2日」が2名（13.3%）であり、ケアの対象者の属性に関わらず、半数の回答者はほぼ毎日ケアに時間を費やしていることが明らかになった（図4）。また、1日当たりのケアに費やす時間については、「3時間未満」が9名（60.0%）と最も多

く、次いで「3～7 時間」6 名（40.0%）であった（図 5）。

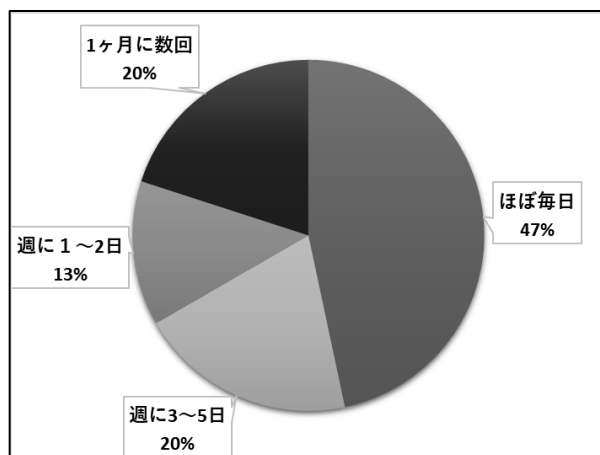


図 4 ケアの頻度（N=15）

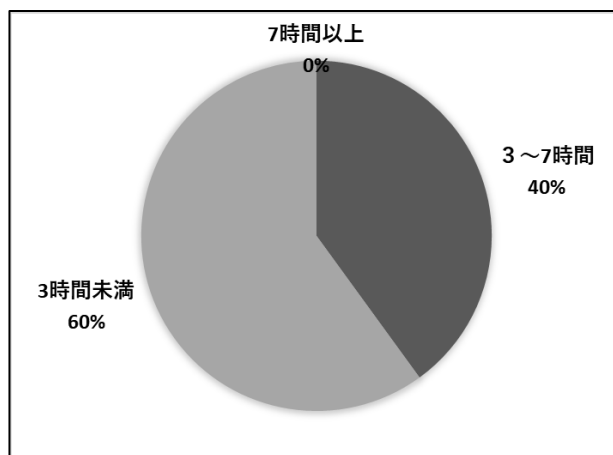


図 5 1日あたりのケアに費やす時間（N=15）

⑥ ケアのためにできない行為

ケアのためにできなくなっている行為を複数回答で尋ねたところ、66.7%が「特にない」と回答していた（図 6）。一方で「睡眠が取れない」「自分の時間が取れない」という回答もあった。

⑦ ケアについての認識

自らが行っているケアについては、全体の 26.7%が「やりがいを感じている」と回答しており、また 60.0%は「特にキツさは感じていない」と回答していた（図 7）。他方、時間的余裕のなさは、3 名（20.0%）が感じていた。

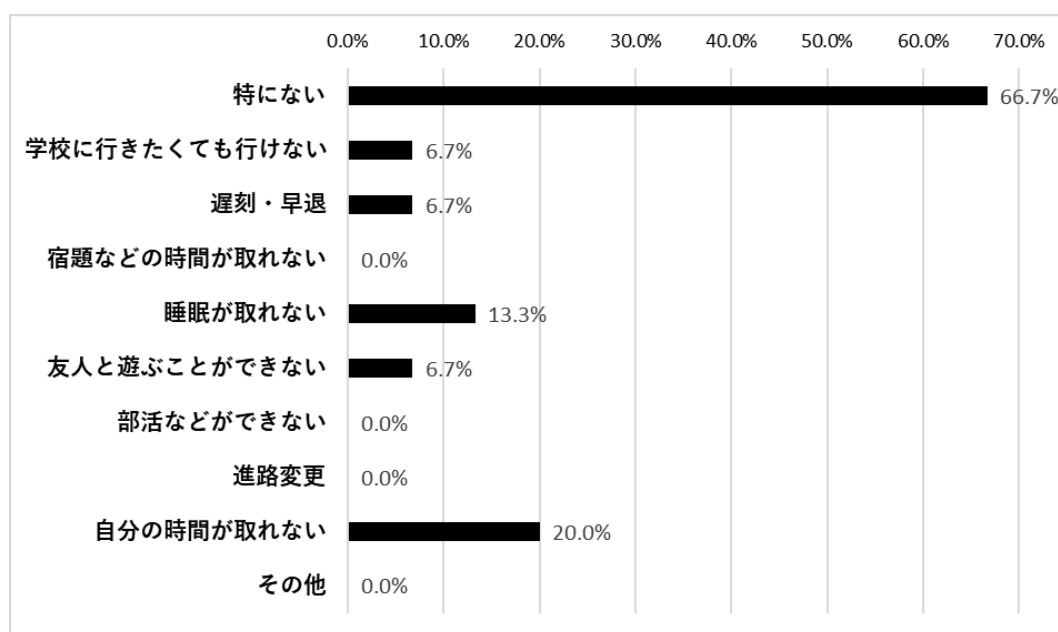


図 6 ケアのためにできなくなっていること（複数回答：%）N=15

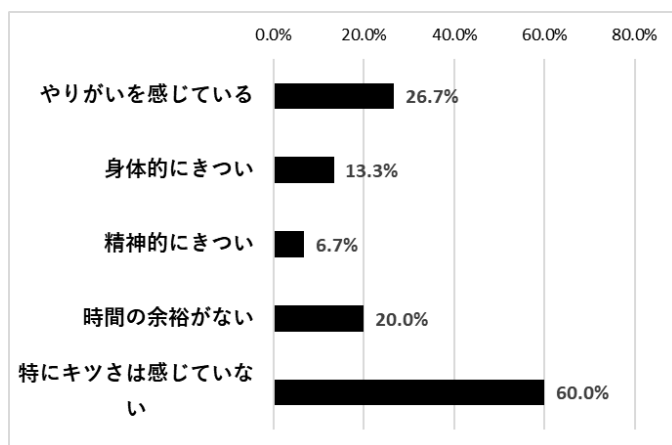


図7 ケアについての認識(複数回答：%) N=15

ケアを一緒にする人がない場合でも、「特にキツさは感じていない」と回答しており、また一緒に世話をしている人がいる場合は、「やりがいを感じている」人の割合が高かった。

⑧ ケアにかかる相談

先行研究でも指摘されているように、本研究の回答者もケアについては相談したことがない人が8割を占めていた。また、相談したことが

ある場合（3名：20.0%）、相談相手は家族や親戚、SSW、SNSでの知り合いと回答しており、学校の先生や保健室の先生には相談していないことが明らかになった。

相談をしない理由として最も多い回答は「誰かに相談するほどの悩みではない」（7名：46.7%）、次いで「家族外の人に相談する悩みではない」（3名：20.0%）、「相談しても状況が変わると思えない」（3名：20.0%）であった（図8）。

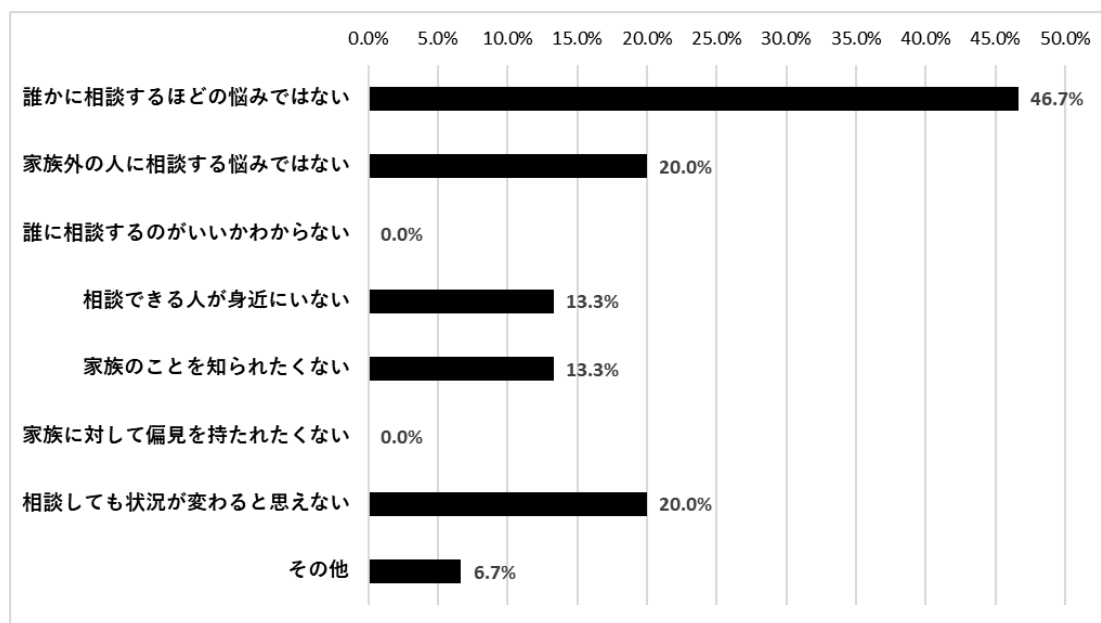


図8 相談しない理由（複数回答：%) N=15

⑨ 希望する支援

希望する支援として多かった回答は「特にない」（7名：46.7%）であり、次いで「自分の今のことについて話を聞いて欲しい」（2名：13.3%）、「自由に使える時間が欲しい」（2名：13.3%）が挙げられていた。

4. 考察

本研究において、家族の世話をを行っている生徒の割合は、対象者の 5.6%であった。この数字は、昨年全日制高校に通う生徒を対象に実施した調査の結果と比較すると、約 1%ほど高い。しかし 2020 年に行われた全国調査では、定時制高校 2 年生の場合は 8.5%が家族の世話をっており、これと比較すると少ない結果であった。

本調査の回答者 269 名中、家族の世話をしている生徒はわずか 15 名であり、実態をより正確に把握するには、聞き取り調査が必要である。とはいえ昨年度北九州市の全日制高校に通う生徒を対象にした調査の結果と比較すると、定時制高校に通う生徒特有の特徴も浮き彫りになった。

具体的には、全日制の生徒と比較して、①一人親世帯の割合が高いこと（2020 年の全国調査結果でも同様）、②相談相手がいないという回答の割合が多いこと（2020 年の全国調査結果とは異なる）、③相談相手として家族や親戚、友人、学校の先生を挙げる割合が低く、保健室の先生や SSW/SC を挙げる割合が高いこと、現在の悩み事は「進路のこと」よりも「仕事やアルバイトのこと」が多かったことなどがある。

ケアラーのみの回答に注目すると、全日制の生徒と比較して、定時制の生徒は、父親と一緒にケアをしている割合が低い（2020 年の全国調査結果でも同様）。またケアの頻度については大きな違いはみられなかったが、1 日のケア時間を「3～7 時間」と回答した割合は、定時制の生徒の方が多くなっており、比較的多くの時間をケアに費やしていることが推察された。また、ケアのためにやりたくてもできないことについて「特にない」と回答した人の割合は、定時制の方が少なくなっている（2020 年の全国調査結果とは異なる）。全日制の場合はケアについて「やりがいを感じている」と「特にキツさは感じていない」と回答する人の割合がともに 4～5 割程度であったのに対し、定時制では「やりがいを感じている」という回答が 3 割弱、「特にキツさは感じていない」は 6 割であり、定時制の生徒がケアにキツさは感じていないものの、肯定的な意義を見出していないことが考えられる。さらに、ケアについての相談の有無は共に同程度であり、相談しない理由についても同様の傾向がみられたが、定時制の生徒の場合「誰かに相談するほどの悩みではない」や「家族に対して偏見をもたれたくない」と回答する割合が全日制よりも低く、「家族外の人に相談する悩みではない」「家族のことを知られたくない」「相談しても状況が変わると思えない」と回答する割合が若干高かった。このことから、問題をできるだけ家族の問題は家族内で何とかしようとする傾向が、全日制の生徒と比べて強いことが推測される。

全国調査の結果と比較すると、本調査の対象者の特徴として、次のようなことが挙げられる。たとえば、ほぼ毎日家族の世話をする人の割合が高めであること（本調査 46.7%、全国調査 35.5%）、ケアについて誰かに相談したことがない人の割合が高いこと（本調査 80%、全国調査 51.6%）、ケアについての相談相手として家族を挙げる人が少ないこと（本調査 33.3%、全国調査 70.0%）、ケアについて相談しない理由について「家族に対して偏見を持たれたくない」という回答が少ないこと（本調査 0%、全国調査 12.5%）などがある。

その一方で、全国調査と類似した傾向も見られている。具体的には、きょうだいのケアをしている者が多いこと、福祉サービスを利用しつつ家族の世話をを行っている人の割合が極めて低いこと、世話について相談しない傾向にあることや、相談しない理由の傾向、世話をすることに対して「特にキツさは感じていない」と回答する傾向も類似している。

本調査の結果では、「特にキツさは感じていない」「特に希望する支援はない」「誰かに相談するほどの悩みではない」という回答が多かったが、昨年度の調査でも指摘したように、ヤングケアラーの問題を考える上では、本人の認識もさることながら、実際の学校生活や日常生活への影響の程度を客観的にみる必要がある。長期にわたって世話をし続ければ、それが当然のこととなり、とりたてて誰かに相談したり、支援を求めたりすることではないと認識している可能性もある。とくに本調査の回答者には、問題をできるだけ家族の問題は家族内で何とかしようとする傾向があると推察される。さらに、家族のケアに対し肯定的な意味を見出すことが難しい場合、精神的な負担にもつながりやすい。したがって、家族内で問題を抱え込むことがないよう、日常的にかかわりを持ち、相談してもらえる関係性を築くことが求められる。

昨年度の調査結果同様、割合としては多くはないものの、悩みを相談する相手として学校の先生や、保健室の先生、SSW／SC を挙げる者もあり、家族や友人以外とのつながりを持てている者もいることが示されている。したがって、全日制の場合と同様に、一次相談を充実していく必要があると言える。とくに、一人親世帯が多いことや、相談相手として家族を挙げる割合が低いことに鑑みると、その重要性は殊更高いと言えるだろう。

ヤングケアラーに対する支援のポイントについては、すでに全国調査が実施されており、効果的取り組み事例や、自治体の体制面のポイントも提案されている⁶。これらの事例や支援ポイントに北九州市の地域特性を加味してより効果的な対策を講じていく必要がある。

5. まとめ

本調査では、北九州市内の定時制高校に通う生徒を対象に、ヤングケアラーの実態を明らかにする目的でアンケート調査を行った。その結果、回答者の 5.6%にあたる 15 名が家族の世話をしていることが明らかになった。その 8 割（12 名）は相談の経験がなく、実態が表面化しにくいことが示唆された。

昨今ではヤングケアラーに対する問題意識が高まり、2024 年 6 月からは「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」に対して、子ども・若者支援地域協議会と要保護児童対策地域協議会が協働して支援を行うよう法においても規定された。しかし、これまでの調査でも毎日家族の世話をしながらも、相談していない子どもは多く、発見から支援に至るまでのハードルが高いことが示唆されている。ヤング

⁶ 再掲 4.

ケアラーの実態把握と、効果的なアウトリーチの方法、表面化した場合の対応、そのために不可欠な多分野連携について、今後も継続的に検討していく必要がある。

謝辞：本調査にご協力いただいた学校関係者の方々に深く御礼を申し上げたい。

2024 年 高校生の生活実態と家族のケアに関する調査

この調査の目的は、北九州市内の学校に通う高校生の生活実態と家族のケアに関する実態を把握し、検討することです。ご協力をお願いいたします。なお、回答しなくても、あなたの不利益になることはありません。

北九州市立大学 地域戦略研究所 教授 深谷 裕
基盤教育センター 准教授 寺田千栄子

1. あなたの学年と年代を教えてください。

- ☐ 1 年生 ☐ 2 年生 ☐ 3 年生 ☐ 4 年生
☐ 10 代 ☐ 20 代 ☐ 30 代以上

2. 性別を教えてください。

- ☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他（答えたくないなど）

3. 居住地を教えてください。

- ☐ 北九州市内 ☐ その他

4. 現在の悩み事や困りごとについて教えてください。当てはまるもの全てにチェックをしてください。

- | | |
|---|---|
| ☐ 友人との関係のこと | ☐ 自分と家族との関係のこと |
| ☐ 学業成績のこと | ☐ 家庭内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど） |
| ☐ 進路のこと | ☐ 病気や障がいのある家族のこと |
| ☐ 部活動のこと | ☐ 自分のために使える時間が少ない |
| ☐ 学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと | ☐ 特にない |
| ☐ 塾（通信含む）や習い事ができない | ☐ その他 _____ |
| ☐ 家庭の経済的状況のこと | |

5. 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無について教えてください。

- いる ➡ 質問 6 へ
- いない ➡ 質問 7 へ
- 相談や話はしたくない ➡ 質問 7 へ

6. 相談した相手について教えてください。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）
- ☐ 親戚（おじ、おばなど）
- ☐ 友人
- ☐ 学校の先生（保健室の先生以外）
- ☐ 保健室の先生
- ☐ スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
- ☐ 医師や看護師、その他病院の人
- ☐ ヘルパーやケアマネージャー、福祉サービスの人
- ☐ 近所の人
- ☐ SNSでの知り合い
- ☐ その他 _____

7. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（この質問での「お世話」とは、本来大人が行うと思われる家事や家族のお世話などをすることです。）

- いる ➡ 次の質問 8 を回答後、質問 9 へ進む
- いない ➡ 次の質問 8 が最後の質問です

8. 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。当てはまるもの全てにチェックしてください。

☐ 母親	☐ 姉
☐ 父親	☐ 弟
☐ 祖母	☐ 妹
☐ 祖父	☐ その他 _____
☐ 兄	☐ 施設・寮

9. あなたは母親や父親のお世話をしていますか。当てはまるもの1つだけにチェックをしてください。

- ☐ 母親の世話をしている ➡ 質問 10 へ
- ☐ 父親の世話をしている ➡ 質問 10 へ
- ☐ 両親の世話をしている ➡ 質問 10 へ
- ☐ 母親や父親の世話はしていない ➡ 質問 11 へ

10. 母親や父親の世話をしているのは、どのような理由からですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 高齢（65歳以上）
- ☐ 介護が必要な状態（食事や身の回りのお世話が必要）
- ☐ 認知症（いろいろなことを忘れてしまう、わからなくなるなど）
- ☐ 身体障がい（手や足が自由に動かせない、目が見えない、耳が聞こえないなど）
- ☐ 知的障がい（文章を理解することが苦手、計算が苦手など）
- ☐ 精神疾患（心の病気。気持ちが落ち込んでいて何もできないなど）※そうかもしれないときも含む
- ☐ 依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、お金に困っている、家族が困っているなど）※そうかもしれないときも含む
- ☐ 精神疾患や依存症以外の病気
- ☐ 日本語が苦手
- ☐ わからない

11. あなたは祖母や祖父のお世話をしていますか。当てはまるもの1つだけにチェックをしてください。

- ☐ 祖母の世話をしている ➡ 質問 12 へ
- ☐ 祖父の世話をしている ➡ 質問 12 へ
- ☐ 祖母と祖父の世話をしている ➡ 質問 12 へ
- ☐ 祖母や祖父の世話はしていない ➡ 質問 13 へ

12. 祖母や祖父の世話をしているのは、どのような理由からですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 高齢（65歳以上）
- ☐ 介護が必要な状態（食事や身の回りのお世話が必要）
- ☐ 認知症（いろいろなことを忘れてしまう、わからなくなるなど）
- ☐ 身体障がい（手や足が自由に動かせない、目が見えない、耳が聞こえないなど）
- ☐ 知的障がい（文章を理解することが苦手、計算が苦手など）
- ☐ 精神疾患（心の病気。気持ちが落ち込んでいて何もできないなど）※そうかもしれないときも含む
- ☐ 依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、お金に困っている、家族が困っているなど）※そうかもしれないときも含む
- ☐ 精神疾患や依存症以外の病気
- ☐ 日本語が苦手
- ☐ わからない

13. あなたは兄弟姉妹のお世話をしていますか。当てはまるもの1つだけにチェックをしてください。

- ☐ 兄または姉の世話をしている ➡ 質問 14 へ
- ☐ 弟または妹（たち）の世話をしている ➡ 質問 14 へ
- ☐ 兄弟姉妹の世話はしていない ➡ 質問 15 へ

14. 兄弟姉妹の世話をしているのは、どのような理由からですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 幼い
- ☐ 介護（食事や身の回りのお世話）が必要
- ☐ 身体障がい（手や足が自由に動かない、目が見えない、耳が聞こえないなど）
- ☐ 知的障がい（文章を理解することが苦手、計算が苦手など）
- ☐ 病気
- ☐ 日本語が苦手
- ☐ わからない
- ☐ その他 _____

15. あなたは両親や祖父母、兄弟姉妹以外の人のお世話をしていますか。

- ☐ している ➡ 質問16へ
- ☐ していない ➡ 質問17へ

16. 両親や祖父母、兄弟姉妹以外の人のお世話をしているのは、どのような理由からですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 高齢（65歳以上）
- ☐ 介護が必要な状態（食事や身の回りのお世話が必要）
- ☐ 認知症（いろいろなことを忘れてしまう、わからなくなるなど）
- ☐ 身体障がい（手や足が自由に動かせない、目が見えない、耳が聞こえないなど）
- ☐ 知的障がい（文章を理解することが苦手、計算が苦手など）
- ☐ 精神疾患（心の病気。気持ちが落ち込んでいて何もできないなど）※そうかもしれないときも含む
- ☐ 依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、お金に困っている、家族が困っているなど）※そうかもしれないときも含む
- ☐ 精神疾患や依存症以外の病気
- ☐ 日本語が苦手
- ☐ わからない

17. あなたが行なっているお世話の内容を教えてください。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- ☐ 兄弟姉妹のお世話や保育所等への送り迎えなど
- ☐ 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- ☐ 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- ☐ 通院の付き添い
- ☐ 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- ☐ 見守り
- ☐ 通訳（日本語や手話など）
- ☐ 金銭管理
- ☐ 薬の管理
- ☐ その他 _____

18. 誰と一緒にお世話を行なっていますか。当てはまるもの全てにチェックをしてください。

- | | |
|------------------------------|--|
| ☐ いない | ☐ 兄弟姉妹 |
| ☐ 母親 | ☐ 親戚の人 |
| ☐ 父親 | ☐ 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用 |
| ☐ 祖母 | ☐ その他 _____ |
| ☐ 祖父 | |

19. お世話をしている頻度について教えてください。

- ☐ ほぼ毎日
- ☐ 週に3～5日
- ☐ 週に1～2日
- ☐ 1ヶ月に数日

20. 1日にどれくらいお世話を行っていますか。(日によって異なる場合は、この1ヶ月で最も長かった日についてお答えください。)

- ☐ 3時間未満
- ☐ 3～7時間
- ☐ 7時間以上

21. お世話をしているために、やりたいけれどできないことについて教えてください。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 学校に行きたくても行けない
- ☐ 遅刻・早退してしまう
- ☐ 宿題や勉強をする時間が取れない
- ☐ 睡眠が十分に取れない
- ☐ 友人と遊ぶことができない
- ☐ 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
- ☐ 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは変更した
- ☐ 自分の時間が取れない
- ☐ 特にない
- ☐ その他 _____

22. お世話をすることについて、どのように感じていますか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 身体的にきつい
- ☐ 精神的にきつい
- ☐ 時間の余裕がない
- ☐ 特にきつさは感じていない
- ☐ やりがいを感じている

23. お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

- ☐ 相談したことがある ➡ 質問 24 へ
- ☐ 相談したことはない ➡ 質問 25 へ

24. 相談した相手は誰ですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- | | |
|--|---|
| ☐ 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい） | ☐ スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー |
| ☐ 親戚（おじ、おばなど） | ☐ 医師や看護師、その他病院の人 |
| ☐ 友人 | ☐ ヘルパーやケアマネージャー、福祉サービスの人 |
| ☐ 学校の先生（保健室の先生以外） | ☐ 近所の人 |
| ☐ 保健室の先生 | ☐ SNSでの知り合い |
| | ☐ その他 _____ |

25. お世話について相談したことがない理由について教えてください。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 誰かに相談するほどの悩みではない
- ☐ 家族外の人に相談するような悩みではない
- ☐ 誰に相談するのが良いかわからない
- ☐ 相談できる人が身近にいない
- ☐ 家族のことを知られたくない
- ☐ 家族に対して偏見を持たれたくない
- ☐ 相談しても状況が変わると思えない
- ☐ その他 _____

26. 学校や周りの大人にしてもらいたいこと、お世話のことであつたらいいと思うサポートは何ですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

- ☐ 自分の今のことについて話を聞いてほしい
- ☐ 家族のお世話について相談にのってほしい
- ☐ 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
- ☐ 自分が行っているお世話の全てを代わってくれるサービスが欲しい
- ☐ 自由に使える時間が欲しい
- ☐ 進路や就職など将来の相談にのってほしい
- ☐ 学校の勉強や受験対策など学習のサポートをして欲しい
- ☐ お金の面で支援をして欲しい
- ☐ わからない
- ☐ 特にない
- ☐ その他 _____